

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第14号

平成29年 9月 5日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

2学期は成果を追求する人ほど成長する 「進路希望の実現」「所属感・有用感の充足」「奉仕の心の醸成」

植物の実りの時期と重なる第2学期は、学校生活の上でも最も実り（成果）の多い時期です。学校生活でも、実り（成果）を本気で追求した生徒ほど、力をつけ、成長します。

第1学期の学校評価の結果を踏まえて、第2学期は「進路希望の実現」「所属感・有用感の充足」「奉仕の心の醸成」をキーワードに、教育活動の充実を図ってまいります。

1 第1学期の成果

生徒と教師の評価ともに、第1学期は次のような良い点が認められました。

- 落ち着いた態度で、積極的に授業に参加している。
- あいさつ、きまりを守ること、友達への思いやりなど、おおむね満足できる状態である。
- 清掃態度や運動に親しむ態度は、良好である。



2 第2学期の問題点

一方で、次の点については、生徒と教師ともに問題としてとらえています。

- 家庭学習を計画的に行っている生徒が、学年が上になるにつれて減少している。
- 「早寝・早起き・朝ご飯など」の規則正しい生活習慣が身につけていない生徒が多い。
- 進んでゴミを拾ったりするなど、奉仕（公共心）に関わる実践が十分でない。

3 第2学期の課題解決について

そこで、職員会議で、第2学期の課題を次のように確認しました。

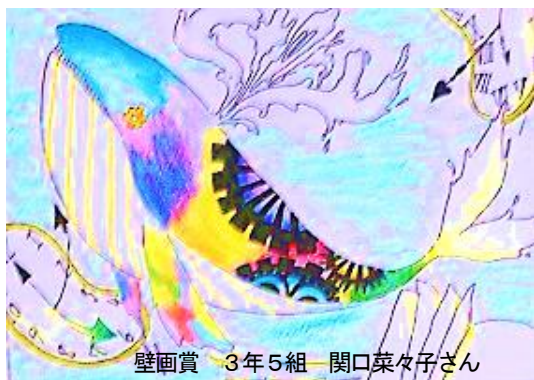
- (1) 各学年の授業の充実と3年生の進路目標の実現に向けて
 - ◇「進路と学習」についての理解を深め、目的意識を持って家庭学習に取り組む習慣を定着させ、効果的な学習方法を考えさせます。
 - ◇授業の終わりに、次の時間につながる予習や今日の授業内容が定着する復習を宿題として与えたり、自主的に行えるようアドバイスしたりします。
- (2) 所属感や自己有用感の充足に向けて
 - ◇計画に沿って道徳の授業を実践し、成果を振り返りながら授業の充実に努めます。
 - ◇文化祭をピークに生徒活動を活発にさせ、所属感や自己有用感を味わわせます。
- (3) よりよい生活習慣と奉仕の心の醸成
 - ◇学級担任と関係職員との連携で、生活習慣や食習慣の向上に努めます。
 - ◇清掃の意義を理解させ、奉仕の心をいろいろな場面でも実践させます。



これらの課題解決の成否は、教員一人一人が、それぞれの教室で、生徒の変化を確認しながら繰り返し指導することと、一人一人の生徒がいかにかかわっています。ですから、これらが第2学期の課題であることを生徒にも是非理解してほしいと思います。また、全体指導だけでなく、個別指導を必要とする場合もあります。保護者の皆さんにも、お子さんの課題と第2学期の変化に目を配っていただいで、個別指導の際にご協力をお願いします。

校内文化祭の準備着々と進む

第2学期の初日に全生徒が目に見えるように、夏休みの終盤に校内文化祭の壁画等に採用された作品が東階段の壁に掲示されました。10月20日（金）の文化祭成功に向けて、こうして準備が着々と進められています。



壁画賞 3年5組 関口菜々子さん

3年生思春期の性を学ぶ

夏休みを直前にした7月14日（金）、岩瀬公立病院附属高等看護学院の松田智恵子先生をお迎えして3年生を対象に思春期講座を実施し、①中学生の恋愛事情 ②避妊のこと ③性感染症・STIについて学習しました。性教育では「寝た子を起こすな」という発想からの転換を求める声が年々強くなっています。今後は、性に関する知識と同様に、あるいはそれ以上に性に関する心の持ち方も重要になってくるはずで

です。次の文章は、柳田邦男著「壊れる日本人—ケータイ・ネット依存症への決別—」に紹介されているものです。2004年、いわき市に住む高橋まり子さんは、郡山市で開かれた日本ホスピス在宅ケア研究会に参加されました。ご主人は、大腸がんで小学校と保育所に通う4人のお子さんを残してこの世を去られました。

高橋さんが亡くなって二年ほど経ったある日、中学生になった息子の一人が、まり子さんに突然真顔で話しかけた。「お母さん、ぼく子どもができるようになったよ」。まり子さんは、とっさに、好きな女の子がいてその子が妊娠でもしたのかと思いいい、「いのちは大切なんだよ。お母さんは借金してでも赤ん坊を育てるから、絶対に中絶なんかしちゃだめだよ」と言った。すると、息子はこう言ったのだ。「お母さん、何言ってるの。ぼくは子どもができるようになっただけだよ。ぼくがそんなことするわけないじゃん。お父さんが教えてくれたの、ぼくたちみんなにね。お父さんがベッドで手を出して、両手は何のためにあると思うかって聞くの。ぼくたちはボールを受け止めるためとか、ご飯を食べるためとか言っちゃったけど、お父さんは、みんな合ってるけど、みんな違ってる。両手はね、好きな人を抱くためにあるんだ。だけど、体だけを抱くじゃない、心までしっかりと抱くんだって。心を抱きしめたいくらい好きになれた人でなければ結婚なんかしちゃダメだって。お父さんはお母さんのこと、本当に好きだから、心まで抱くんだと言ってたよ」

四人の子どもたちは、相談したいことや困ったことがあると、今でも近くにあるお父さんのお墓に行くと、お父さんに相談するという。

講座冒頭の校長あいさつで、このお話に少し触れました。これまで校長を努めた稲田中と須賀川三中でも紹介してきたお話なのですが、声に出して読み聞かせようとすると泣けてしまっただめなんです。保護者の皆さんが、お子さんに読んで聞かせてくれませんか。

この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。

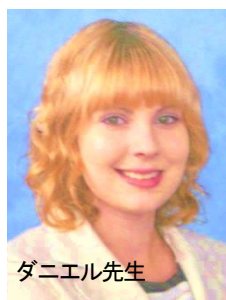
Goodbye ダニエル先生

Welcome ジャッキー先生

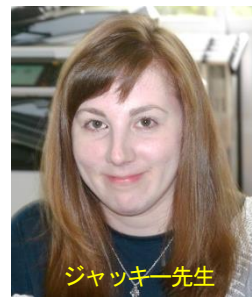
これまでご指導いただいた外国語指導助手のダニエル・バレイジ先生が帰国され、2学期から新たに熊田ジャッキー先生にお世話になります。

1学期の終業式では、ダニエル先生が涙ながらに日本語でお別れの言葉を述べ、須賀川二中と二中学生をいかに愛していたかが伝わりました。生徒ももらい泣きをしていました。

ジャッキー先生は以前にも須賀川市で外国語指導助手をしていた経験があり、2度目の須賀川市の勤務になります。ジャッキー先生ともすてきな人間関係の中で、英語によるコミュニケーションの楽しさが味わえるよう期待しています。



ダニエル先生



ジャッキー先生